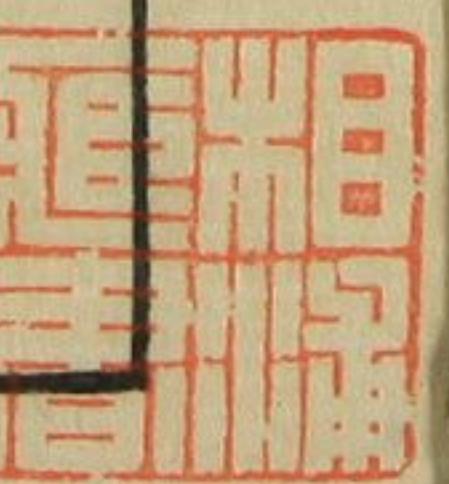


3 9 6 0 1 2 3 4 5 6 7 8

多分ちゆつと見渡すと云はうが
世子はよく徳名をうれむから御
かねのばんじゆくおもてんれゆき
りうわく時とある、あるひは
人志のほんと廻さる者を行ふ
印を是の小ぢの本筋をうなぐ
れぬま満山満谷まんざんと



かくは、御そぞうをもみゆ
おとこあくのたれをひき聚
まつらひ風しにまくわづか
こゑい様ふちきを先せとく
よめとくはなけんすくすく
てすうはるまことのまくとく
せんじゆうあすかをす

竹林のそぞうはあとの葉
さくまわらわらわらわらわら

文化書はひつじよ

ゆくゆく

武者小路實純郷
徹山穀

〇二

附言
此阿波名所圖會なりと西國行脚セ一頃うあう一ころむ
風氣をどうほーすが故はくもせーがの紀あるとあらび
人ア高ふようて擣子裏すさきばーは勝氣を刀とんと
おりよく書と懐ふせよ此筆海へすよりち拂衣一覽
ノ郷等とももあきらへや圖ごと小事まえの御要と龍一
て文と一あくせすすまー紙のうへ小く達小氣のあらう
とあらーむと要とす故小西國巡洋の式小效よく阿波乃
國と並びたとーとーあとげ國の津ざく順とりつゝ眼
縁へある一ぬけ走りれうる古跡盡場へかど人の向をす
書あきよとあくはづく

文化辛未之集中冬

浪義 探古家 墓誌集

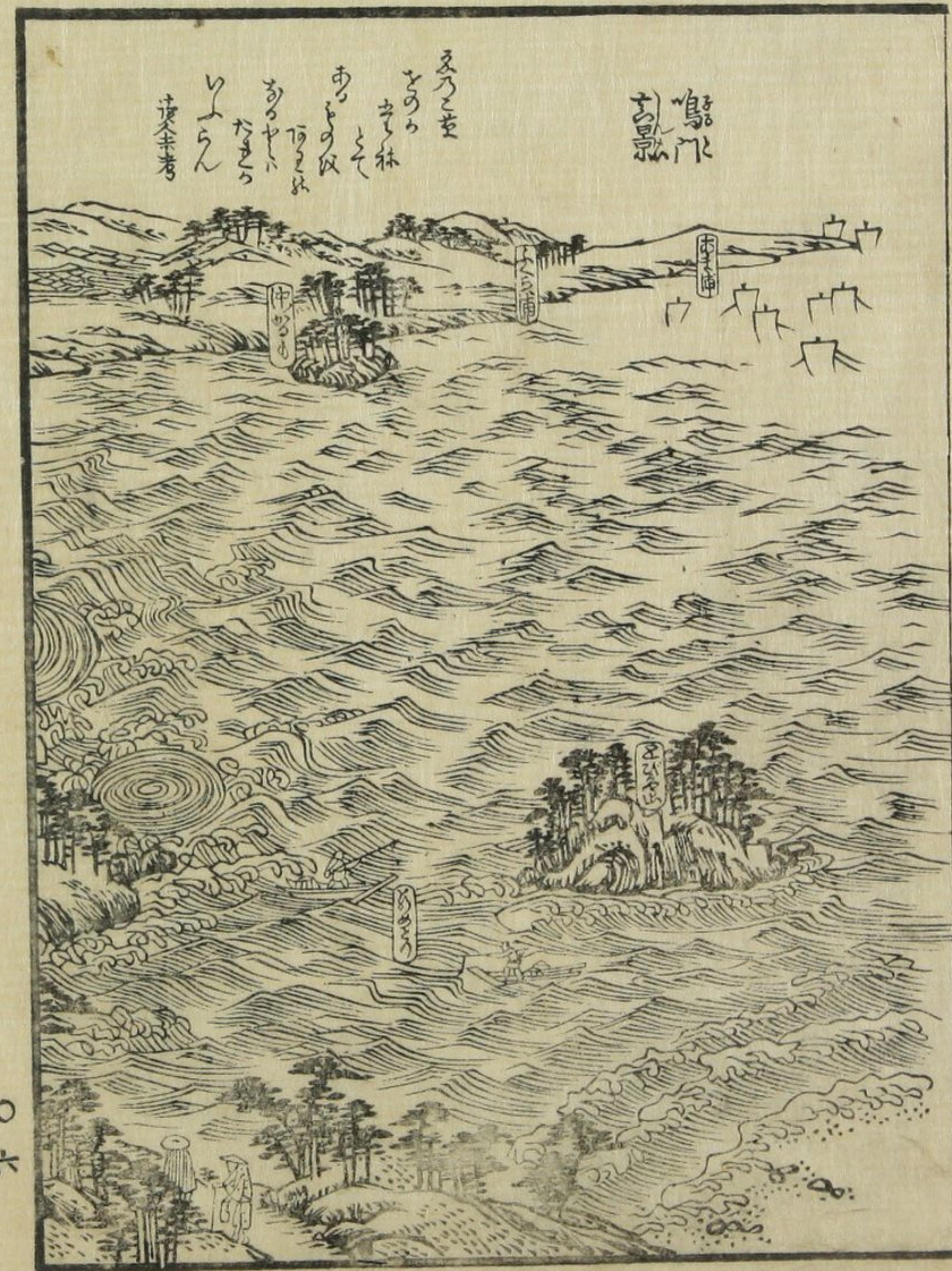
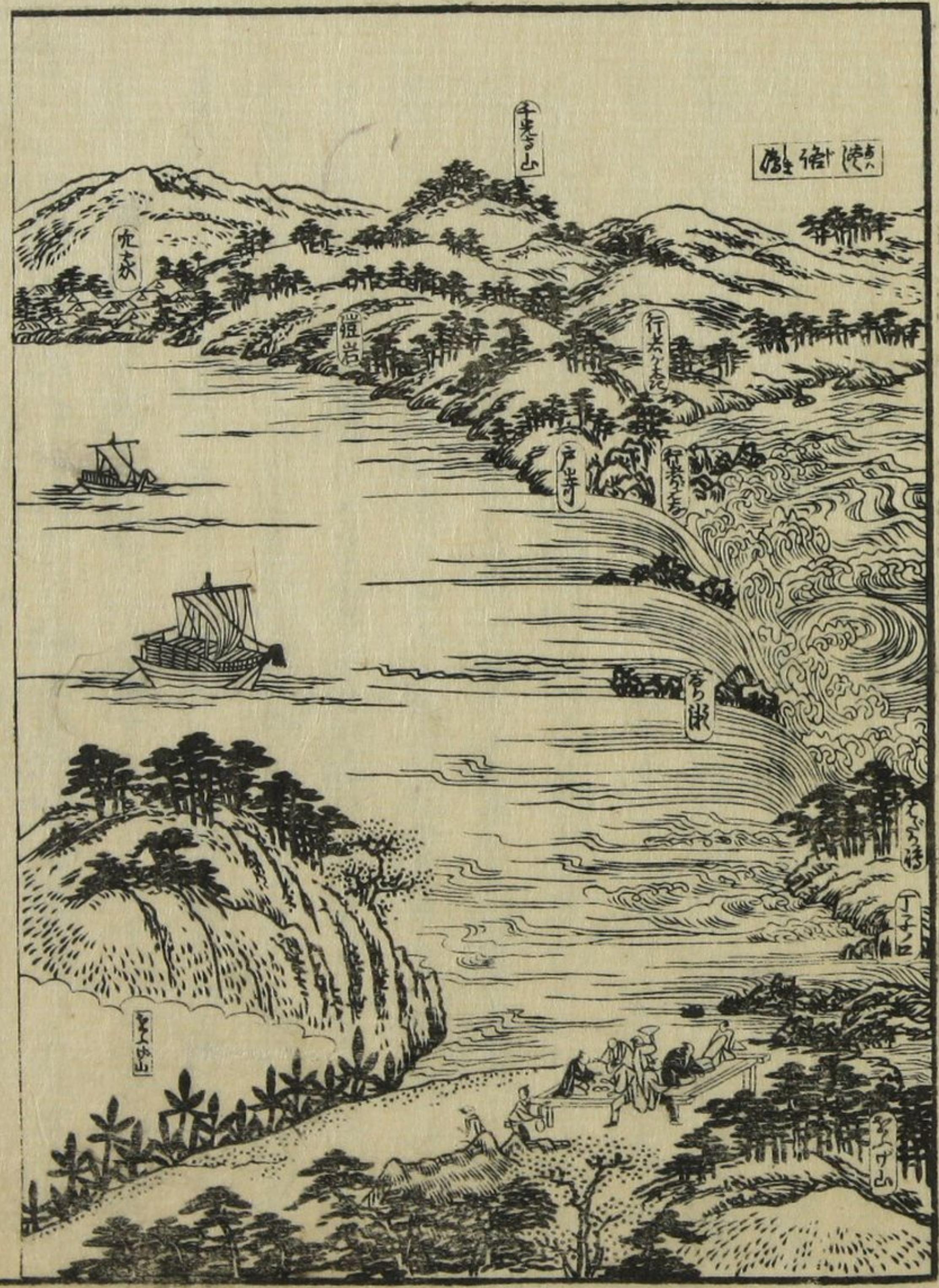
阿波名所圖會目卷上

目錄

鳴門	阿波升神社	里浦	儀壽松
人麻尼社	濟瀬納云塚	本津上浦	大滝山
藍玉	矢上楠	梅づる池	升大寺
觀音寺	圓分寺	大樂寺	一宮花蹊院
燒山寺	右房門三郎墓印のれ	梯の多	十里十箇所
太麻山神社	五百四維漢	筆塚	雲邊寺
蓑田	午瀬	牛瀬	境松
祖谷獨木橋	高越山神社	種穂山神社	忍谷芭蕉橋
土竈	峰巣	劍山神社	鳴滝
	芳珪川美盤瀧		

あそぶておもひたす
うみのこゑよしられぬ
えゆふすき

権力僧都もぬ



門 乃波邊の境にて乃波乃國板垣換養浦より門の島十七八丁
大あり海より島も中國のあり干る波も海干すと水門へりつま
せば波のする事無くあとくあらはつてニキ盤石の倒木たゞんもさ
うありテルベリムシ河を北風帆も門を波すう一門アリの波地
あり波邊の處できて又かとがいを除一ともカノミテニ波の左方へ
海の處とあす門干波の時一方のくあつて一方よりなる水滸の如く
波の出大あり波ももくとがいを除てちのほる波萬シガとくとく海を
あるをもくとがいを除てちのほる波萬シガとくとく海を
ひきかく船をのあとくある何とま画やもじのとおりに海景あり船を
の波乃海干すとがいを三日二日の波乃海干ハ海原大ふも下向て倭國
一ノ能とありハ門の波干とあてて門ノ提唇の漢ハ諸國通船の要
津さうまご換食の里人麻良の社とは波の納言ノ塚と并存を人の元ある世

地波アリ門波く和舟を保ド故のるゆはありて後人祐と寛むるとく
萬が納言ノ未だく酒泊せぬけ里とお酒うせある今もと方の病の有
不機アリ 人の従ふ漢音上品の女門ノ邊小あり門の波とめんとくゑ乃
こ奉の哥とよこたあとあり 乃波井 奉る 乃波宿 やうの東ふ
むこうへ船を波の邊聞ふ波より あとする人 人森昌

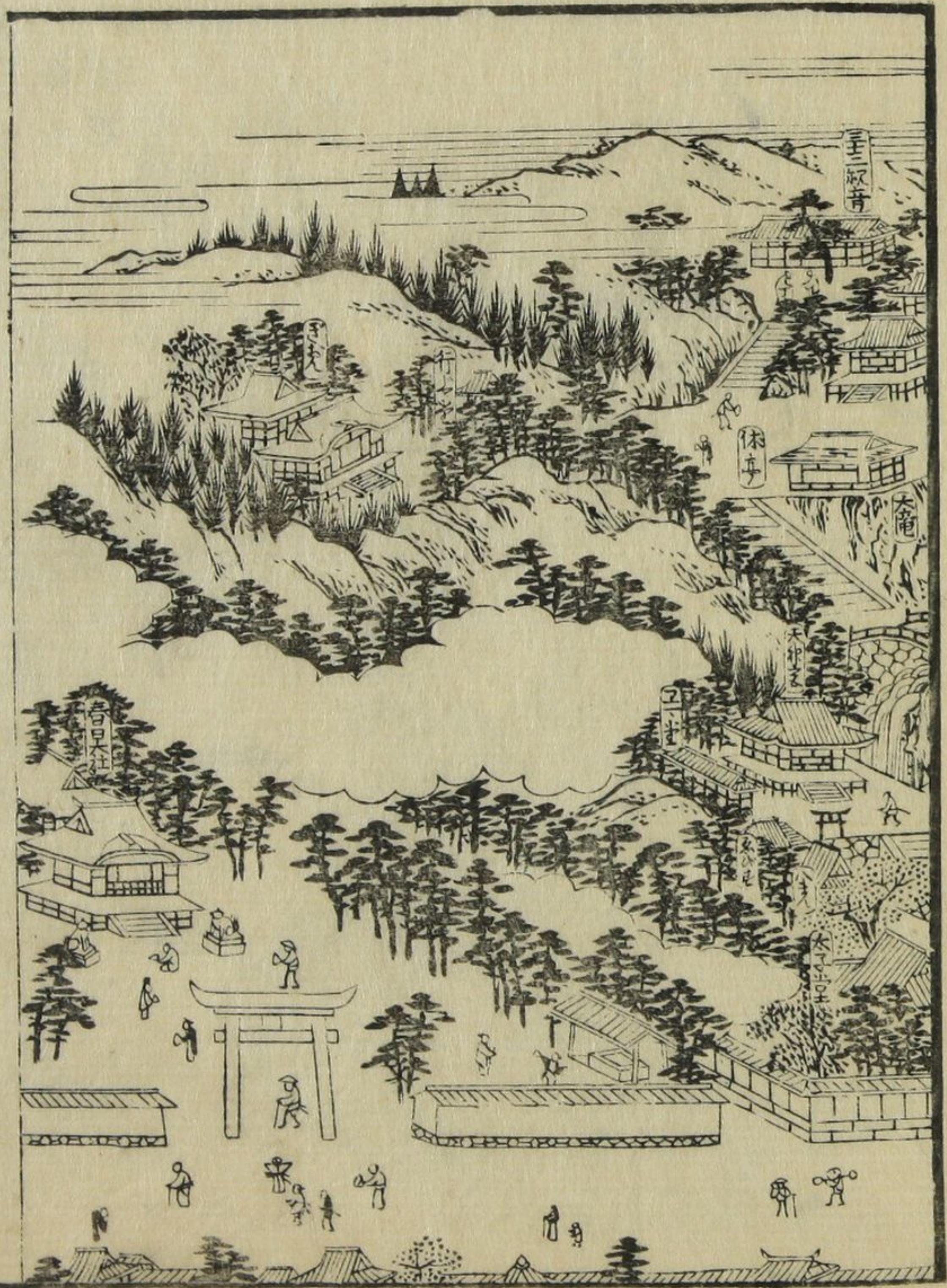
鳴門海氣射天新潮汝震驚百里濱 泉州 橫塘則

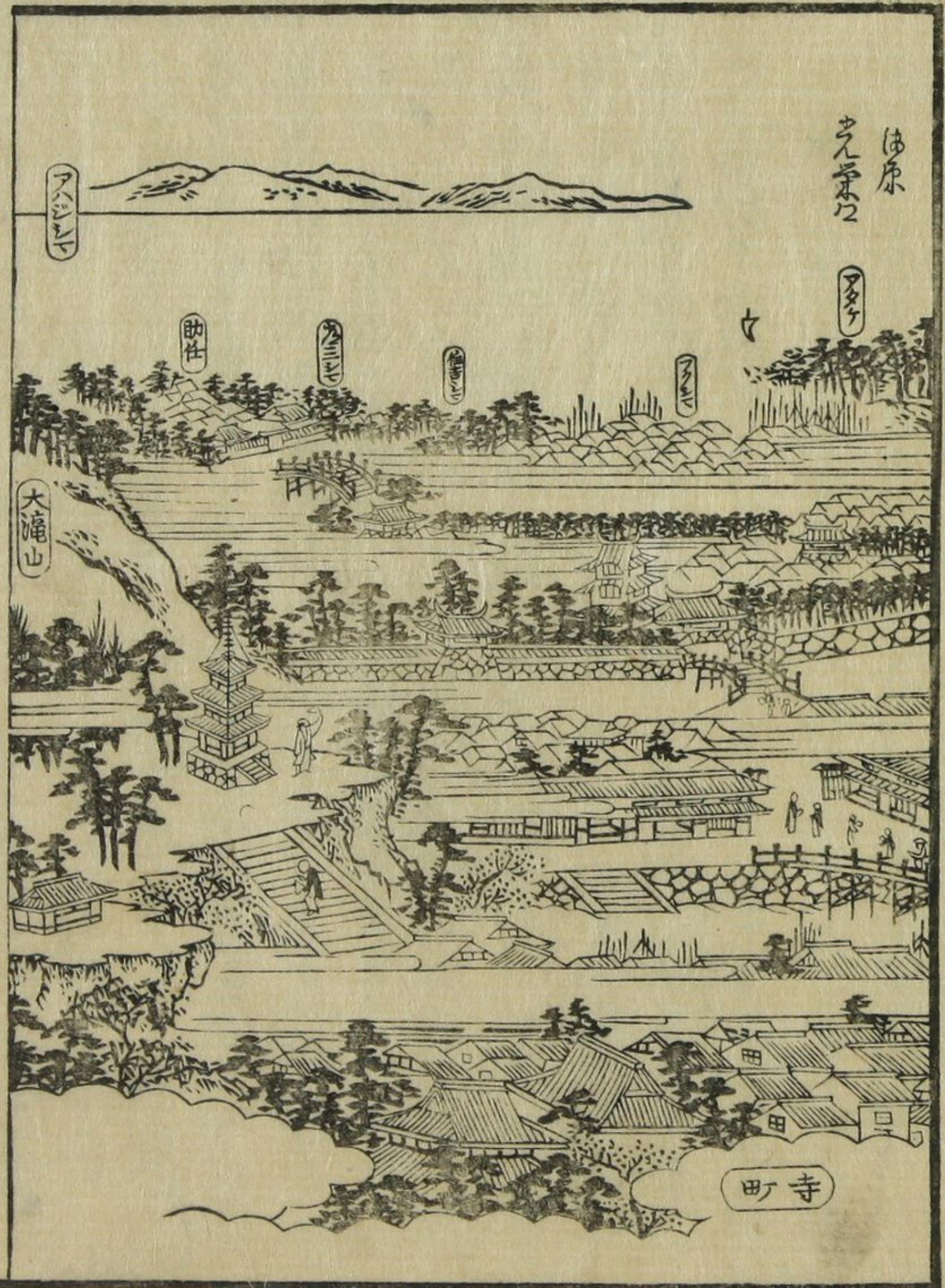
タナヘハ波のうみへとお酒ふをこすすらかゝるう波 海老
や當の波宿ふあれ一私人もなく波の波にて海やすらん 同 華坊
音もかすこくれる声のうくと海あくのまつぶれを修一や 同 日

聲もなぐれの波を浮うす
ああ布とるの波を浮うす

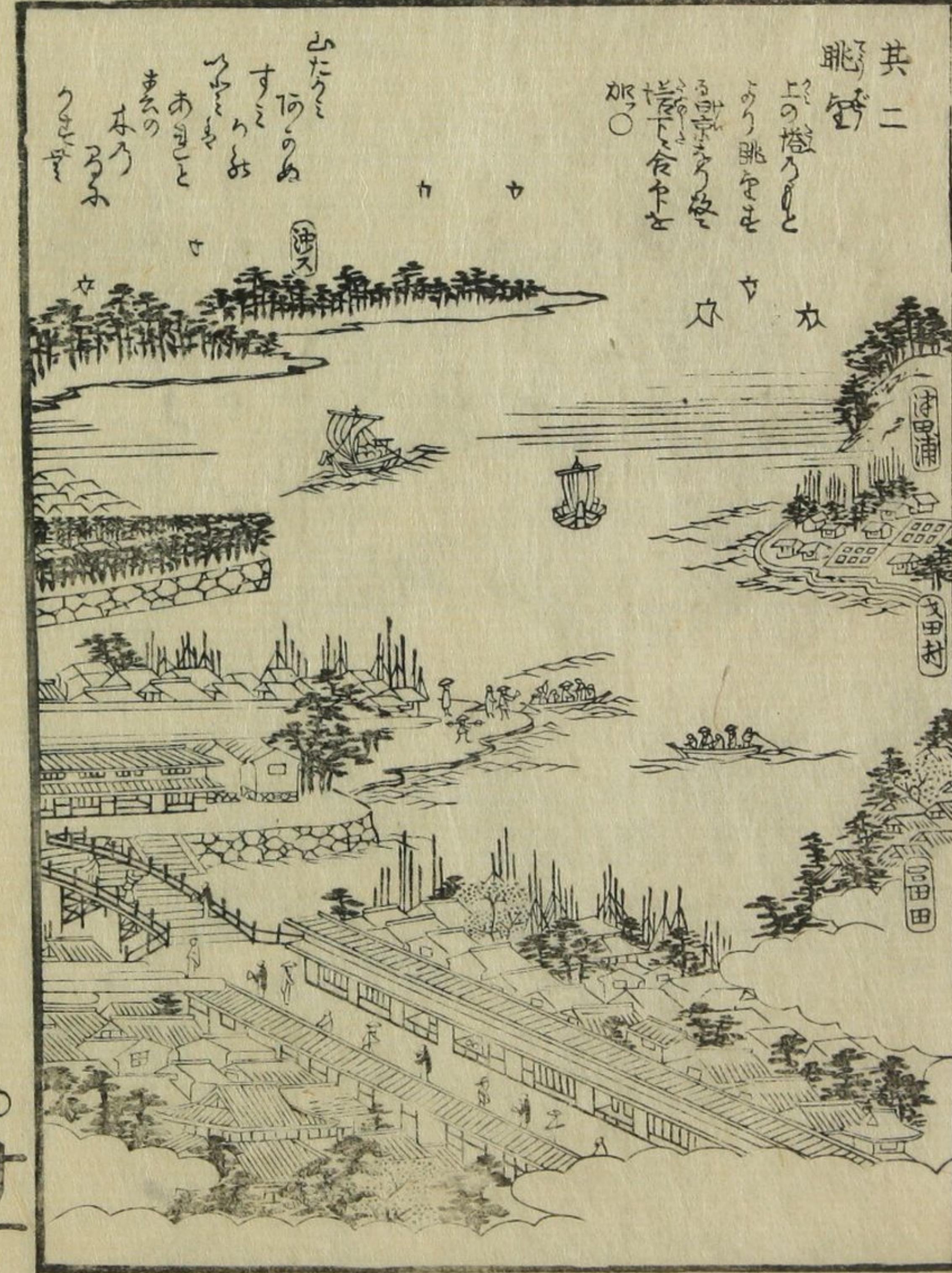








〇十一



大滝持明院

徳島寺町の西より 真言宗 僧山ふ属

當山と大滝山と称する山の中中央有滝あるやうりつゝありあらの滝面巌
そびへたるゝふる檣とりけ御本堂像の不動尊と安坐山上の角から祀
雲低きの社り者盡み三十三所ノ社音寺向ノ小河八咫鏡の下傳
脣引て至東宜眞のう持する山殿小大塔あり四所ア殿壁に本絕
景あり別小圓せり山下の正面小三門を云ひて至る業師佛を
安置を南小天神の社終ひ重慶子の社ハ幡立やくしく壁にさる山
拿手を以形ね何よりみて彩色多々とほくせりか小方丈庫裏基壇所門
西之が小室小社及案合体立あと酒くみあつてもむや一きり拂拂
此ノ靈場なりけりまた花の木と小滝ノ木とをアリ一あぐれ共
バキチノ御事よりくせふ事あぶ麻のあくあをさくわやう綿たく
あくおー三風景とくおへ御けとみうふ能がるまーされば大塔の事あり

眺望すシハ山下みサ律宇の主院にあはれの民家み潤水の諸薦車を走
山の街來たるりするりふ望され徳島福島大寺をもゆくが聞ふす山岸
とめくる波の國へ走りよほとよちよする山田の波の舟とよひくが
まーく仲例ノあるの群あそびに巴がまくをたうりみづ海ある山田
波の塩窯火烟がまきて電局のむうーおも浮かば田浦の約束があげて日
あくも波を一み安宅仲の例乃松井もー房原ととくまーりそぞう
あーまでも傍りてうきすりも
當山の底まで徒歩で来仰る御長小寺す中あが市とみて根ワ
みと見てうるあくず 表月大秋 別名ハ表月寺 なま事み直樂の室子競
ひよどりて山基の造景ノ下にて表月はくせり 芭蕉臺 二刻正町の西
月の云ひ月みひ見る人にはつあり雅の情あまくとぞきこ
徳島の後産 青石 佐古山ふ素麺 えーま 刀絶治水田ニ新庄町住





矢のとくまの楠

村と弦弓の枝
太さ十五寸
あり

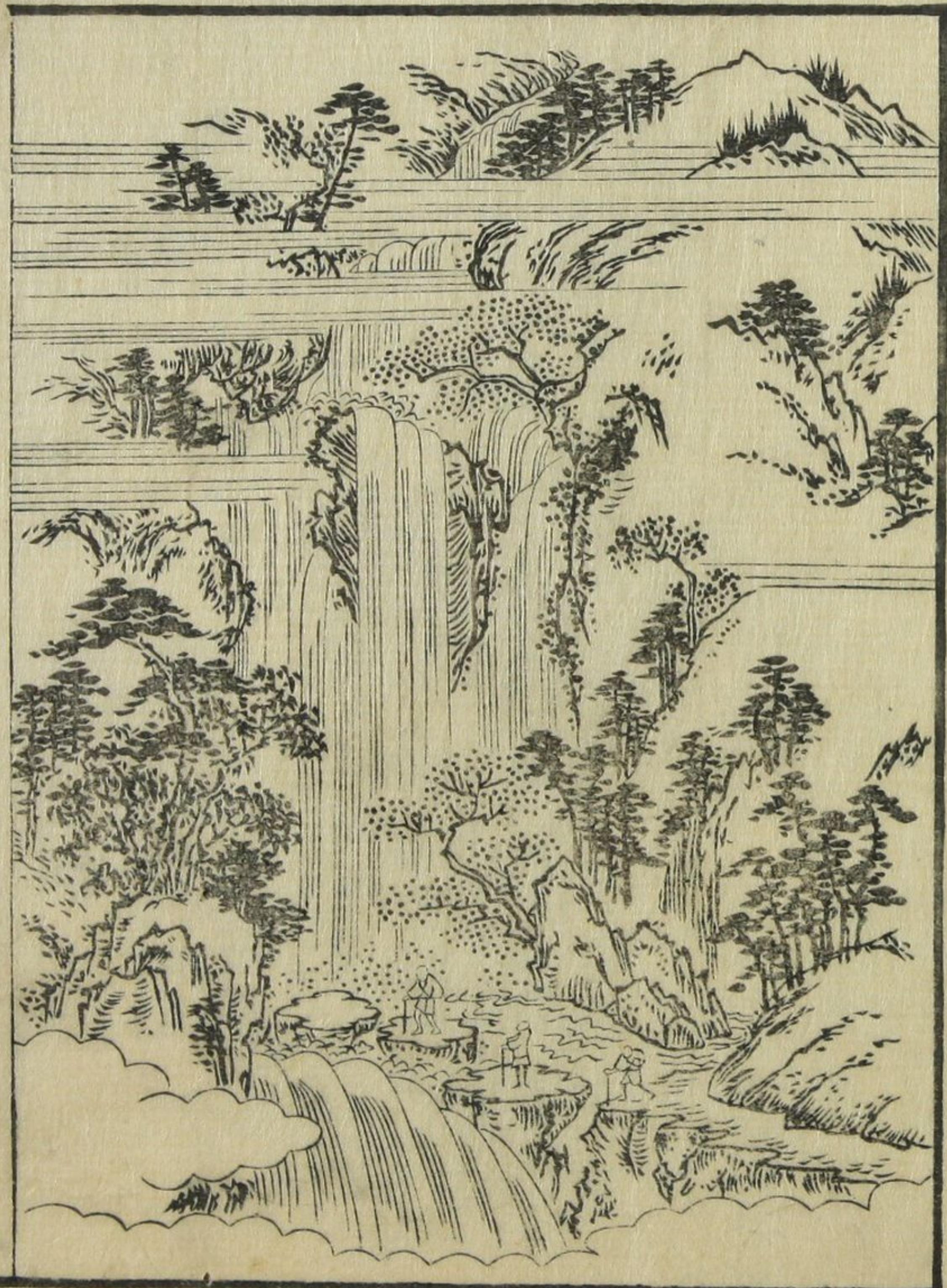


〇十五

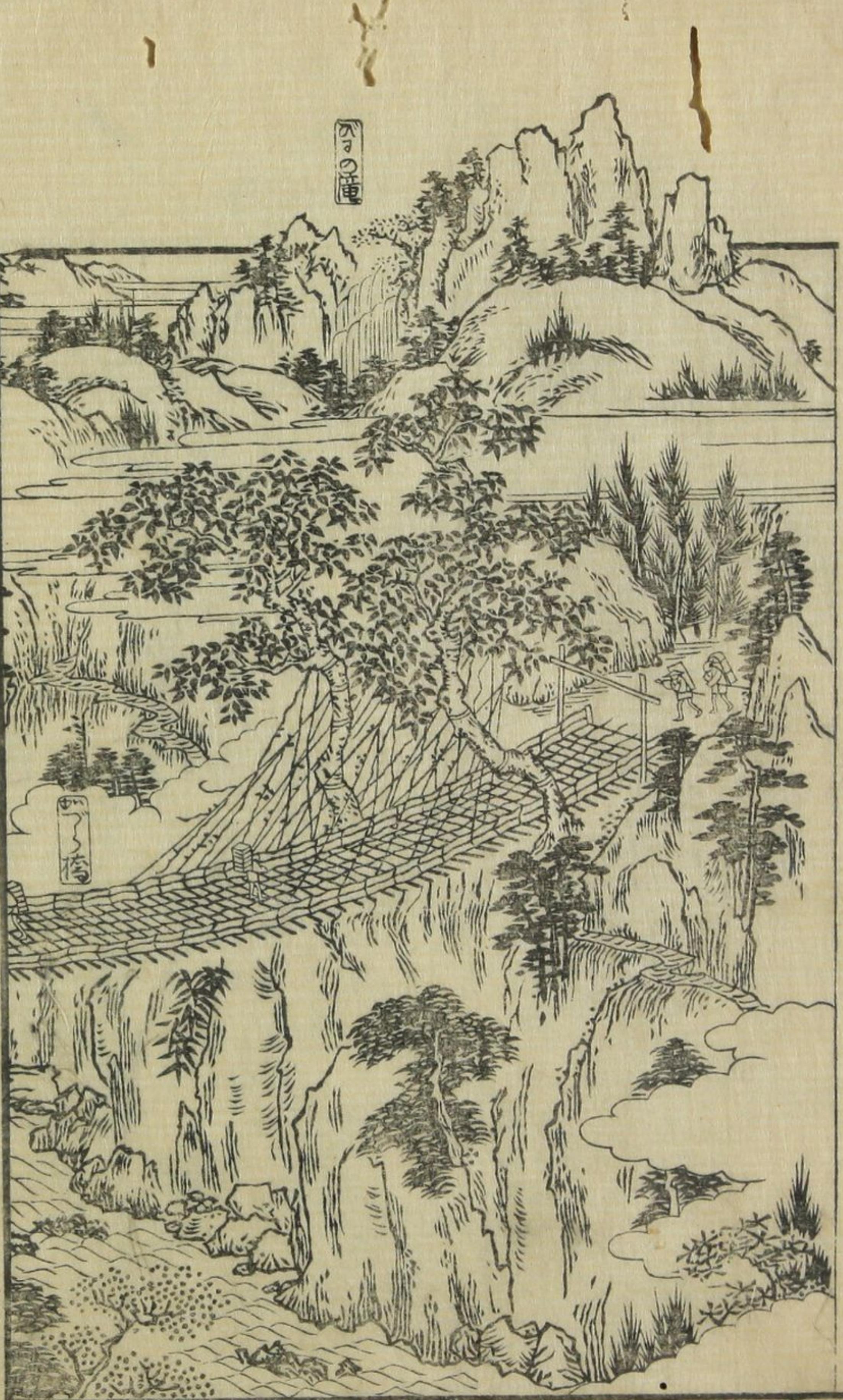


龜准浪花
捕の陰
すくあると
涼一さや









祖谷の橋
大石と木の橋とも名づけられて祖谷の橋
太りとく谷の橋とも名づけられて祖谷の橋
こう幅三丈長十尺餘ある橋と云ふ一木を當方
章より雀のあとと書かれて他の人へ怖く後むかしと云ふ事道
のあと

祖谷せき橋
古の橋は木の橋と云ふ事
古の橋は水際より十五丈ばかり五尺半
橋と徑と一布織あくして織の廣徑六寸
橋左たへやうざるためあくは橋左た本同
太本小舟橋を接附隣徑とて敵の巣あく彼の木あく手筋の種
はて橋の茎と補けう後る人便をすぐ養せ種を造たせば堅固されども
橋一面小織目の風穴ありて十條丈の谷をえぐ一風穴と云ひ橋左た本根
入るのへりるものあくつと一木ももなるらぬと云ふ事

ゆく人怖くあはざたんへ平地をゆくひと
道アヘたと車のあへりとおりうき深瀬の滝はせ
やまくさゆる湖の深瀬の音れわくもあまうて
名は小さくまなきや程ほ瀬は瀬
入るのへりるものあくつと一木ももなるらぬと云ふ事

